

大学院医学系研究科看護学専攻(修士課程)

1 目的

修士課程看護学の領域において、生命と人間の尊重を基盤とし、保健医療福祉及び社会の諸変化に柔軟に対応できるとともに、QOL (Quality of Life) を重視した創造的、実践的な問題解決をなし得る科学的技術と知識を有する人材を育成し、看護学の発展と人々の健康に寄与することを目的としています。

2 組織構成

本学の大学院医学系研究科は、医学部医学科を基盤とした博士課程（3専攻）と医学部看護学科を基盤とした修士課程(看護学専攻)が設置されています。

看護学専攻（修士課程）は、基礎教育課程での教育研究を基盤とし、大学全体で蓄積した教育研究資源と大学が立地する地域を活用した教育研究を基盤として、看護学の専門性を深めるために、3分野（基礎看護学、臨床看護学、地域看護学）を設置しています。

それぞれの分野においては、社会を取り巻く環境の変化に柔軟に対応し、加速度的に多様化し、変化するヘルスニーズを科学的に追及・予測し、必要な対策を講じられるような看護学に関する高度な専門的知識と技術の修得を目指し、高度職業実践者及び看護教育・研究者を育成できるようカリキュラムを編成しています。

看護学専攻の分野及び専門領域

分 野	専 門 領 域
基礎看護学	基礎看護学
	看護医科学
臨床看護学	成人看護学
	小児看護学
	母性看護学
	老年・精神看護学
地域看護学	地域看護学
	在宅看護学

3 専攻および授業科目の概要

1) 専門領域

基礎看護学分野

基礎看護学、看護医科学の領域について教育を行います。最今、Evidence-based Nursing (EBN) が提唱され、看護の知識や技術に関する科学的な実証が不可欠となっています。基礎看護分野ではEBNの実践に必要な知識や技術の習得を目指します。

(1) 基礎看護学

基礎看護学は、人間・環境・健康とのかかわりの中で看護を科学的に探究するとともに看護に関する問題を検証し、課題の明確化を行います。さらに、対象の安全性と安楽性を科学的に実証した看護技術の実践への活用方法について理解を深めます。

基礎看護学演習及び特別研究は、演習、研究を行います。

(2) 看護医科学

看護医科学においては、看護や介護における医学的な疑問点を、科学的に探求し、その原因や解決法を見いだすための研究を行います。具体的にはアンケート調査や実験研究を中心とした講義、演習、研究を行います。

臨床看護学分野

成人看護学、小児看護学、母性看護学及び老年・精神看護学の領域について教育を行います。学部教育で得られた知識、技術及び深い倫理感を持って、さらに複雑な患者の状態、患者を取り巻く環境を客観的に分析、検討し、倫理と実践の関係を学習します。

(3) 成人看護学

成人期の対象とその家族が抱える今日的健康問題を各健康レベルから捉え、対象理解とケアに関する理論と実践との関連を学びます。方法は、研究論文や著書にみる既存理論の実践への応用を批判的に検討し、看護現象からの理論の導き方学習を基に、各自の研究を通して新しい理論の構築を試み、根拠に基づいた対象理解と看護実践を探求します。

(4) 小児看護学

現代社会における小児と家族の様々な問題

について、関連する学問分野の理論を学び、さらに母子保健・小児保健・学校保健・身体障害児対策などの視点により小児看護を検討します。また、小児と家族に関する国内外の文献及び研究論文をクリティークし、各自の研究課題を通して、理論の構築を試み、研究能力と臨床での専門看護実践能力を養います。

(5) 母性看護学

生涯を通じた女性のリプロダクティブヘルス/ライツの視座から、生理的、心理・社会的な健康問題や課題を、PBL形式で、女性のwell-beingを考慮して研究を進めます。看護臨床から、大学院生各自の研究課題を理論と照らし、研究を構築してケアの本質を探究し評価します。その知見から、看護の新しい臨床ケアに反映させて、子どもを産み育てる Women's Health Nursing の発展に寄与します。

(6) 老年・精神看護学

老年や精神看護学の領域で看護実践において、対象自身の生活および生命の質が重要な問題となっています。老年・精神看護分野では、対象の看護を行う上で老年・看護に共通する理論や実践について学習します。さらに、老年看護や精神看護の対象が、疾患や障害の発症を人生の中の転機として捉え、それを自らの人生の中で意味づけ、全体的な存在として機能し、発達するための援助について探求します。

地域看護学分野

(7) 地域看護学

地域に居住する住民のニーズに基づき、保健活動が効果的に実施できるような多様な理論を実践に適応し評価します。それとともに、地域におけるケアシステム構築に向けての地域看護の在り方について理解を深めます。

(8) 在宅看護学

在宅看護学に関連する理論モデルを学習し、在宅で暮らしている人々がより良い健康を保ち、その人らしい生活を送ることができるよう支援する能力を養います。在宅看護に関する諸制度と在宅ケアシステムを理解し、多様な職種と共に在宅療養者を支援するために、より適切で効果的な看護を探求します。演習や研究を通して、在宅看護に関する研究課題を見出し、研究計画を立て、自身の研究課題に沿った研究過程を体験します。

2) 共通科目

本学の目指す高度職業実践者として必要なケア実践能力、管理的能力及び看護を提供する場を改革するための研究方法に関する能力を修得するために、共通科目として、看護倫理学、看護研究方法論、看護教育学、看護管理学、臨床科学、国際看護学特論、看護研究特論、看護学セミナーの8科目を開設しています。

各分野の授業科目と併せて学習することにより、効果的な教育が期待できます。

4 履修方法等

(1) 修業年限

修業年限は、2年を基準とします。

(2) 修了要件

共通科目8単位以上、主領域から18単位及び主領域以外の特論及び共通科目(共通科目として修得する4科目8単位を除く)の中から4単位以上、合計30単位以上を履修するものとします。修士課程(看護学専攻)における授業科目及び単位数は、別表に掲げるとおりです。

(3) 単位修得評価

成績評価は、次の基準で行います。

秀	: 90点以上
優	: 80点以上
良	: 70点以上
可	: 60点以上
不可	: 60点未満

(4) 香川大学大学院医学系研究科看護学専攻(修士課程)における入学以前既修得単位認定について

入学前既修得単位の認定に関しては、別途定めます(「学則・規程」)。

5 学位の授与

学位は、修士(看護学)とします。修士の学位は、大学院(修士課程)に2年以上在籍し、授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に授与します。ただし、特に優れた研究業績を上げた者については、上記在学期間を1年以上とすることがあります。

6. 修士課程授業科目および単位数

	分野	領域	授 業 科 目	標準履修年次	単位数
専 門 領 域	基礎看護学	基礎看護学	基礎看護学特論Ⅰ	1	2
			基礎看護学特論Ⅱ	1	2
			基礎看護学演習	1	4
			基礎看護学特別研究	1・2	10
		看護医科学	看護医科学特論Ⅰ	1	2
			看護医科学特論Ⅱ	1	2
			看護医科学演習	1	4
			看護医科学特別研究	1・2	10
	臨床看護学	成人看護学	成人看護学特論Ⅰ	1	2
			成人看護学特論Ⅱ	1	2
			成人看護学演習	1	4
			成人看護学特別研究	1・2	10
		小児看護学	小児看護学特論Ⅰ	1	2
			小児看護学特論Ⅱ	1	2
			小児看護学演習	1	4
			小児看護学特別研究	1・2	10
		母性看護学	母性看護学特論Ⅰ	1	2
			母性看護学特論Ⅱ	1	2
母性看護学演習			1	4	
母性看護学特別研究			1・2	10	
老年・精神看護学	老年・精神看護学特論Ⅰ	1	2		
	老年・精神看護学特論Ⅱ	1	2		
	老年・精神看護学演習	1	4		
	老年・精神看護学特別研究	1・2	10		
地域看護学	地域看護学	地域看護学特論Ⅰ	1	2	
		地域看護学特論Ⅱ	1	2	
		地域看護学演習	1	4	
		地域看護学特別研究	1・2	10	
	在宅看護学	在宅看護学特論Ⅰ	1	2	
		在宅看護学特論Ⅱ	1	2	
		在宅看護学演習	1	4	
		在宅看護学特別研究	1・2	10	
共通科目			看護倫理学	1・2	2
			看護研究方法論	1・2	2
			看護教育学	1・2	2
			看護管理学	1・2	2
			臨床科学	1・2	2
			国際看護学特論	1・2	2
			看護研究特論	1・2	1
			看護学セミナー	1・2	1

履修方法

- (1) 基礎看護学、臨床看護学及び地域看護学の3分野の領域の中から主領域を選択する。
- (2) 主領域の18単位を必修とする。
- (3) 主領域以外の特論及び共通科目（共通科目として修得する4科目8単位を除く）の中から4単位以上履修する。
- (4) 共通科目は、4科目8単位を選択必修とする。
- (5) 各分野の特別研究は、論文指導を中心とする。
- (6) 合計30単位以上を履修する。